

令和5年度第2回第11期国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会

日 時：令和5年9月9日（土） 午前10時～正午

場 所：国分寺市立子ども家庭支援センター 地域活動室

出席委員：辻、高橋、村松、佐土原、賀來、廣松、波田、岡本、三上、片岡、井原

会 長：それでは、お集まりいただき、ありがとうございます。雨が降り、若干肌寒い  
と思って、私も長袖を出してきましたけれども、また明日から暑さがぶり返す  
ということと、今、ちょうど実習の巡回に、いろいろな福祉関係施設に伺って  
いるのですが、まだまだコロナだとか、新しくインフルに学生がかかったとか、  
いろいろ聞きます。天候不順な時期になりますので、皆様もお体を大切にな  
さってくださいということと、今日は皆さんに動いていただく協議会になって  
おります。後で説明はいたしますが、皆様の積極的なご参加をよろしく願い  
いたします。行楽シーズンではありますが、皆様にぜひ積極的なご発言等よろ  
しく願いいたします。

では、まず、事務局から会議の成立状況について、説明をお願いいたします。

事 務 局：事務局になります。本日、出席委員、11名全員のご出席がござい  
ます。国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会設置条例第6条第2項に基  
づく国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会が開催できることを確認  
しております。よろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございます。開催定数が確認できましたので、これより第2  
回の国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会を始めます。よろしく  
お願いいたします。

本日の議題は、お手元の次第を御覧いただければお分かりのとおり、前  
回に引き続きまして、「子ども家庭支援センター地域組織化事業における父  
親支援の取組について」ということで、前回、いろいろご議論いただきました  
けれども、改めて、事務局に資料をお作りいただきましたので、説明を  
お願いいたします。

事 務 局：それでは、配付資料の説明をさせていただきます。事前に配布  
しております資料11、「他市における父親支援について」、資料12の「令  
和4年度実績報告について」となります。本日、配付しました資料14「こ  
っこっこニュース4月～9月」の資料の3点となります。13については後  
ほど、会議の進行の都合上、本日の議事の終了後に配布する予定でござ  
います。

資料11につきましては、26市の父親支援の状況を調査した結果が取り  
まとまりましたので、資料としてご提出させていただいております。

資料12につきましては、父親支援に限らず、市内における子育て講座の実施状況についてご理解いただきたく、市内の子育て団体等が情報交換する会議の資料を配付させていただいております。

資料12につきましては、報告事項の資料となりますので、ここでは、ご説明を割愛させていただきます。

資料の説明は、簡単ではありますが、以上となります。よろしくお願いいたします。

会長：ありがとうございます。また、この資料はおいおい御覧いただきながらと思いますけれども、資料については、また最後に質問を頂いて、早速、議題のほうに入っていきたいと思います。ということで、今日の議題は、「国分寺市立子ども家庭支援センター地域組織化事業における父親支援の取組」ということで、前回と継続しております。

実質的に審議をしていただく回が限られておりますので、前回と継続ではありませんけれども、前回のご議論の中で、対象は何なのだろうというところが、いまいち定まりきれなかったかなと思います。

これまでの国分寺市の取組、あるいは現状の取組を含めて、いろいろお話を頂きましたけれども、我々は何に向かって、どう働きかけるのかというところが十分絞りきれなかったということで、今日は皆さんにご活躍いただきたいということで、お手元の、いつもはないものが準備されているかなと思います。

今日はこの付箋を使ってグループワークをやっていきたいということで、運営協議会としては、皆さん、着座で話合うというイメージをお持ちかもしれませんが、ちょっと対象がいかんせん、ぼやけたままで議論は進められないということで、もう一回、我々は何に働きかけようとしているのかというのを整理したいということで、皆さんが、ご自身での体験、あるいは伝聞を含めて、聞いておられることを含めて、父親の育児にまつわるしんどさとか、困難とか、そういったものをここに、最低1人5個ぐらいは出していただきたいかなと思います。いろいろなことがあるかと思えます。

うちも、今、下の子が4歳になって、おむつからパンツに変わるところで、ちょうど今日、夜中の1時ぐらい「トイレ」と言っていきなり起きて、トイレに連れ出されましたけれども、いろいろな細かいこととか、具体的なこと、抽象的なこと、いろいろあって結構かなと思いますので、体験談、父親だけに限らなくていいと思います。

ご自身の体験、あるいは、お聞きになられたしんどさとか、そういったものを、取りあえずランダムに出してみよう。それをまとめていく過程で、どういった対象に我々はアプローチできるのかなというのを整理していきたいというのが、今日の趣旨でございます。

なので、今日は、皆さんが積極的にこの付箋を活用していただくというのが、今日の議論の中心になろうかと思えます。これを出していただいた後に、前にホワイトボードをご準備いただきましたけれども、ここに貼りつけながら整理をしていきたいということでございます。ということで、今日は、協議会らしくなくグループワークという形で、このメンバー1つのグループで進めていきたいと思えます。今、ざっくりとこれからの課題をお話ししましたが、何かご質問などございますでしょうか。

委員：父親のことを助けるというのもそうですけれども、父親が参加できないことによる、その周辺の母親もそうですけど、何で父親に参加してほしくなるのかみたいなのところも必要なかなと思って、その辺りも聞いてみたいです。

会長：はい。そういったものをぜひ、どんどんどんどん書いていただいて、最低5つで上限はありません。

委員：私、ちょっと前回出ていないのですけれども、御覧のとおり、ちょっと一世代違っておりまして、まだ息子に3歳の子供がいますので、近くにいるのでよく知っているのですが、彼が苦労していることでもいいのですか。

会長：はい、もちろん、もちろん。そういった形で伝聞とか、聞いたことを含めて。いろいろとお書きいただければと思います。そのほか、いかがでしょうか。

委員：前回の議事録を拝見しておりまして、その中で、今回、父親支援とはなっているけれども、父、母という性別で分けるのが適切なのかということも社会的にあると思っていて、恐らくこの主たる養育者ではないほうの困り感とか、あと、主たる養育者から見た、他方へのこうしてほしいということも含めて、ちょっと広い意味でいろいろなものを出していただくと面白いのかなと思っていますので、よろしくお願いします。

会長：ほかにご質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

まず5分、時間を取りたいと思えますので、思いつくままに、こちらに書いて、まず皆さんの机の上に貼っつけておいてください。それでは、5分取ります。思いつく限り、最低5つ、上限は特に設けません。それでは、お願いいたします。

委員：1枚1個のほうが、よろしいですか。

会長：はい。1枚1個です。

(付箋記入)

会長：はい、5分経過しました。5つぐらい出てきましたでしょうか。

会長：あと1分取ります。まだ、書きかけのものがあるとか、書き足りないものがあるれば、あと1分、お書きください。

(追加)

会長：それでは、追加の1分が終了いたしました。

ここからは、順に発表していただきます。本来なら1巡1個ずつなのですけれども、ちょっと時間の関係もありますので、1人まとめてご発表いただきたいと思います。ホワイトボードにぺたぺた貼っていただきたいと思います。貼っていただくときに、これはどういうことというのを簡単に説明いただければと思います。

まず、近所付き合い。よく挨拶はするのだけれども、何か子どものことで挨拶はするけれども、子どもがいないと、「誰、この人」みたいな感じになるので、そういうつながりが、つくるときは大変かなと。

あと、保育園の親集団に入るとき、私もそうだったのですけれども、保育園に迎えに行くときとか、既につながりがある中でぽつんと最初1人で、周りにお父さん少ないし。いないわけではないのですけれども、なかなかその集団に入るとき、慣れてしまえばいいですが、後々楽なのですけど、最初入るときがしんどかったです。

きょうだいの子守の分担ということで、上の子が何か習い事に行って、下の子、どっちが習い事に随行するかとかですね。あと、子どもの怒り方、私よく怒ってしまうので、連れ合いがあまり怒らない。怒らないわけではないけれども、私ばかりが怒って、子どもがお父ちゃん、嫌みたいな感じに思われます。

あと、お休みの取り方ですね。私の仕事は、ご存じのとおり大学の教員で、授業がないと暇だと思われるのです。では、やんなさいよと。やることあんだよみたいな。あと、休日のリフレッシュの取り方ですね。有給とか、なかなか取れないときにどうするか。あと、おやつあげ方、どのおやつをあげるか、どのタイミングであげるか。私自身は、基本的に家におやつがなかった家庭で育ったので、そんなにおやつストックがあると、ちょっと不思議なのです。毎食後、毎夕食後か、「おやつ」といってアイスとか食べている。どうなのだろうかと、ちょっと違和感がある。連れ合いとの子どもの育て方の違いみたいなことですね。

あと、子どもと過ごす休日の予定。この前あったのですけれども、夏はお祭りの時期になってきますので、祭り行こうと思って、「今度、祭り行くか」と聞いたら、「いや、その日、ママ会で子どもたち遊ぶから行けないよ」と言われて、ちーんという感じでした。こういう予定を、どういうふうにスケジュールリングしているかでございます。こういったところが、私の現状の悩みであったりします。

では、どっち順で行きましょうか。こっち順でいいですか。最初のほうがいいですか。お願いします。

委員：会長が実体験に基づくかなり具体的なことを挙げていただいたのに比して、私はちょっとこのテーマでかなり抽象的なことしか今、思い浮かばず、5枚書くのが精いっぱいだったところなので、ご容赦いただきたいと思っております。

初めに書いたのが、恐らくということで、子どもへの接し方への分からなさというのはあるのかなと。知識面だったり、おむつの替え方とか技術面だったりとか、あと、経験も含めて少ないということで、どうしたらいいのかわからないというところが大きいのかなと思っています。

それと同じですけれども、いまだ家庭では、父親がフルタイム仕事であることが多い家庭が多いので、どうしても子育てに関わる時間の少なさというところで、遅く帰ってきて、そこから、もう子どもが寝ているとか、朝早く出てという中で土日。土日は疲れて寝ていたいのにというところもあったりして、時間を作るところの難しさはあるのだろうと思っています。

あと、子育ての悩みを相談する相手とか機会は少ないのだろうなと思っています。やはり地域で立ち話をして、ああだ、こうだという機会も少ないでしょうし、では、会社で言えるかということ、なかなか。コロナ禍で飲み会も減っていて、そういうところでもなかなかこういうことを話題にすることが少ないのかなと思って、この括弧内に書いたのは、心理的ハードルも含むと書いたのは、やはりそういう会社、立ち位置とか、いろいろなことも含めて、やはり家の中のことを外に相談するということは、もしかしたら母親側よりも心理的ハードルは高いのではないかとと思っています。

あと、時間の少なさとかもありますけれども、やはり地域とのつながり、自分が暮らしている家の近くにいる時間がどうしても少ない、関わりが薄いということでは、教育参加等もお母さんだけということ、授業参観等もということが多いとすれば、地域とのつながりの薄さもあるだろうと思っています。

あと、これは、もう最後に絞り出してというか、かなり抽象的なのですけれども、家族内での孤立とか疎外感。そういう中で出てくるお父さん像というのは、やはり少し子ども、お母さんと距離ができていて、そこがどうしても埋まらないであるとか、やはり子どもへの分からなさも含めて、どうしても、何でこうになってしまうのだということであららしてしまうとか、そういう意味では、家族内で自分の気持ちをよく分かってもらえてないということも含めて、子育てへの困難はあるのかなと書かせていただきました。以上です。

会長：ありがとうございます。では、続いて、お願いします。

委員：ちょっと抽象的なことになってしまう。前回、男性だけを支援するのがいいのか、男女問わず巻き込んでいくのがいいのかという話が出たと思うのですが、最終的には男女を問わず、育児参加する時代になっていくのかなと思うのですが、今、その過渡期にあるので難しい時代なのかなと感じました。まだまだママが中心の育児をしている地域も多いと思うので、ママのネットワークが既に出来上がっていて、そこに入っていき難しさというのがあると思います。

パパ目線だと、日頃、自分のことを話されているのだろうなと思いつつ入っていくのがすごく嫌だという話を聞いたことがあるのと、ママ目線だと、友達の中に旦那さんが入っていて、「今日、ママは？」と聞かれて、ちょっと推しのライブに行っていたのをばらされたくないのか、お互いのプライベートの問題にもなるのかなと聞いたことがあります。私もそれは感じます。あとは、ママが中心なので、ママとのパワーバランスの問題もある。先ほど先生もおっしゃっていたのですが、育児の方針の違いがあったときにどうするのか、まだまだママの言うことを聞いているパパが多いのかなと。

会長：おっしゃるとおりです。

委員：そうですね。それと関わる時間的に育児とか、家事とか、まだ不慣れなパパも多いかなと思います。女性は妊娠期間があるというのもつながってくるのですけれども、あと、母乳をあげたりとか、赤ちゃんの時期はどんなにパパは頑張っても、最終的に母乳に持っていかれる、おっぱいに持っていかれるという、傷つくというのはよく聞きます。何で自分はおっぱいが出ないのだと思う人がいる。

これはパパ側というか、私が感じている男性のイメージなのですけれども、男性は女性に比べて、具体的な目的とかメリットもなく集まりに対して、女性は何となくしゃべろうというので集まるのに対して、男性は何か目的とか子どもを見てもらえるのかとか具体的なメリットがないと、なかなか出ていかないのかなと感じています。

また、私の印象なのですけれども、男性は2つのことを同時にするのが、女性に比べて苦手な傾向にあるのかなという感じがしていて、女性だと、子どもを遊ばせながら立ち話で育児の悩みを相談したりできるけれども、男性は遊ばせながら相談とか、2つのことを一緒にするのは難しい。女性とはちょっとそこが違うのかなと感じています。

環境的な面で、男性は職場からの理解を得なければならないところ、子どもをちょっと病院に連れて行くだけでも休んでもらわないといけなかったりとか、その辺り理解のある職場じゃないと難しいかなと。うちの主人の会社は、子どもが病気をしたときの休暇というのを頂ける会社なので、それがすごくありがたい。でも、職場によっては、そういうのは有給でしないとイケないのだろうなと思うと、職場の理解というのも大事なかなと思います。

また、男性が活躍できる場が、今はまだ地域で限られているのかなと思って、個人的には、小学校のPTA活動でイベントのお手伝いとかする、土日にイベントのお手伝いをするPTAを選んで、主人を巻き込んで一緒にやろうとかいって、何となく意識的に作っている。でも、そういうふうにしないと、なかなか男性が地域に溶け込んでいける場が少ないのかなと思います。

最後に、まだ支援者に女性が多いと。親子ひろばに私も参加したときに、ほとんどが女性だったので、男性のスタッフこそ今は貴重な存在で、もっと増えていくといいのかなと感じています。以上です。

会長：ありがとうございます。それでは、次、お願いします。

委員：皆さんのように話が出てくるなと思ったのですが、その人たちは本当にリアルタイムの問題で、それは周りにとか、あたしとか言ってもいいんじゃない、アドバイスしてもいいんじゃないみたいな内容ばかりなのですが、あえてそれを書きましたので、お話をさせていただきます。

まずは、1日の生活のリズム。これは、奥さんがやっていること、毎日関わっている人と、自分が週に1回しか関わらないのでは、リズムを崩される子どもの力、子どもがこうでいいと言え、そこにどうしても行ってしまい、自分の弱さでした。あとは、おもちゃなどの片づけをやるときの、やる気を持っていき方というのは、実際じっくり対応していれば、いろいろなパターンを試せると思うのですが、試せない歯がゆさ。あとは、テレビ。テレビを引っぱりなしに見たがる。お母さんのときは、「何分ね」とか「何十分ね」と、きちんとルールを守るのに、自分では何でか、先ほども言いましたが、子どものほうが上位に立つというところで悩んでいるということです。

あと、御飯。先ほど先生でもありましたけど、御飯前におやつをひたすら食べたがる。お腹が空いているタイミングを見極めてあげられない自分の歯がゆさ。あとは、おむつ外しをしているときに、「もぞもぞしているな」というのがあるのですが、そのときの声のかけ方が、タイミングが悪くていつも失敗し、奥様に何かいろいろ言われるという歯がゆさ。

あとは、友達と公園や親子ひろばとかに土曜日も連れて行くようなのですが、そのときに、お友達とおもちゃの順番とか、そういったものをどういうふうにしてあげたらいいのかという、本当に基本的な悩みがあるということでした。

あとは、道路でボール遊びとか、自転車とか、基本遊ばせてしまうようなのです。あの狭い道で。だがしかし、その道は、本来はそういうことをしているのかなというところの、そういうしつけ的な部分で、これは道路で遊ばせるに限らず、本来はそういうところでないところで遊ばせたり、今回はいいよみたいな、何か特別なルールの持ち方とかで本当は持っているのか、どうなのかさえも悩んでいるという、すみません、ちょっと1つのことなのですが、そういう悩みを聞いてきました。以上です。

会長：ありがとうございます。では、次、お願いいたします。

委員：育休を3か月弱ぐらい取らせてもらって、どこに通うこともない3か月みたいなのを体験して、ちょっとゆっくりできて、こういう育児で分かったこととか、あと、今、仕事に復帰したので、仕事はこうだったなみたいなのも併せて。まず、仕事に行っている間は、家の様子が分からなくて、パートナーに聞いたり

するけれども、詳細な部分がやはり分からないと、この大変さが何となくは分かっているのだけれども、十分ではない。大変さの理解が。例えば1人子どもが泣いている状態で、でも、御飯を作らなければいけないとか、キッチンに料理中に入ってきてしまったら危ないからとか、いつ料理をするかから考えなければいけないとか、そのときの気持ちにつらさがあるとか、そういう細かいところが分かっていたりはしないのではないかなど。

あとは、仕事をしていると、家を出る時間とか、家に帰る時間の決定権が自分にはない。その仕事の状況とかによって帰らなければ。でも、これは自分の行動だから、奥さんの的には多分、何かいろいろ思うところがあるのだろうけど、実はお父さんにその決定権はなくてという状況が板挟みになっているのかなど。

あとは、1人で子どもの面倒を見られないというのは、能力的な、知らないというのもあるけれども、今、下の子を母乳で育てているので、おっぱいをあげていると、ミルクも飲んでくれるのだけど、離れ過ぎるとお母さんのほうがおっぱい張ってしまったりするからというので、物理的になかなか距離を離せないというところに難しさがあるなど。

あと、これもつらい話なのですが、仕事ができていると休めない。仕事ができる人でないと、何かもろ手を振って行ってらっしゃいと言ってあげられないみたいな雰囲気があって、忙しい状況のときに休めないもそうなのだけど、あの人、毎日ろくに仕事していないのに今日も休んでいるよみたいな言われ方をしてしまう。本当にそうなので、その状況で休めと奥さんに言われてというところに、多分つらさがあるなど。

あと、私は教員をしていて、なので、これはうちの状況というよりは、こういう子もいるなというのですけれども、お父さんで多いのが、子どもの発達状況が分からない。今、この子には何ができて、この子には何ができないとか、それが年相応なのかどうかみたいなのが分からなくて、できないことに怒ってしまうとか、この子の特性上、もうそれは絶対諦めたほうがいいのに、どうしてもやはりお父さんはそれを許せないみたいなのとか。

あと、これはお母さんに多いと思うのですが、思ったとおりの育児をしたいという思いがあって、お父さんもそうだし、第三者の何かアドバイスだったりとか、子どもを預けるとかもできない。あの人に預けてこんなことされたら嫌だなみたいなのが多分ある。教員に文句言うとかも多分そうなのですが、「学校ではこういうことを教えてください」みたいなところも、多分そういう思想がすごく強いのではないかなと思います。

あとは、子育て観について。これはさっきも出ましたけど。パートナーと話す機会もなければ、多分両親ともにだと思ってしまうのですが、誰にもこういうふうに育てたいのだと確認する時間がない。どうしても、今はうちもそうなのですが、仕事から帰ってきて、子どもを寝かしたらそのまま自分も寝てし

まって、朝、起きたら、子どもも起きているみたいなので、2人でゆっくり話す機会がなかなかないと。

あとは、おのおの自分のつらさを分かってほしいと思っていて、伝えるのだけれども、私は正直、仕事のつらさなんかは共有することをもう諦めているので、育児のつらさは聞くけど、こっちのつらさは伝えてもなみたいなので、腹の中だけで比べている状態。そんなこと言っても俺も大変だったけどみたいな、そのうまくいってなさが何かあるなと思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。では、次、お願いいたします。

委員：私もすごく抽象的になってしまったのですけれども、まず、子どもがもう大きくなってしまったから、皆さんの話を聞きながら、ああ、幼児の頃は確かにそんなこともあったと思っているのですけれども、うちの子は第1子からとても育てにくさを、強くずっと感じ続けた子どもでありまして、それは今でも、軽減したけど子どもが何に困っているか分からない。子どものことをなかなか理解できなくてというのもありました。

とにかく仕事をしなければいけないので、子どもと関わる時間がなかなか取れなくなりました。でも、経済的な不安はあって、経済的に余裕があったら、幾らでも子どもと関われるし、気持ちにも余裕が生まれるから、いろいろ学校の行事に行ったりとか、学校行事に参加する余裕がないのもそうなのですけど、どこに連れていく、何を食べたと言ったら「いいよ」と買ってあげられる。

でも、お金がなかったら、「イチゴ食べたい」と言っても、「今日は、ちょっとごめん。買ってあげられないんだ」となってしまっただけで、また申し訳なさが募ってとなっていくので、全ての基本に経済的な不安があったのはあったかなと思いました。

でも、子どもが小さいうちは、やはりけがも骨折もするし、靭帯損傷もするし、何かシラミもらってきたの何だの、家庭と仕事の両立が難しく、当時、勤めていたところに子どもを連れて行けたけど、この仕事でなくなったら、もうちょっとそれもできなくなるみたいな感じでいたときもありました。

一般的な仕事に就くと、やはりなかなか周囲の理解が得られず、「えっ、子どもが学校来てない」とか、幼稚園で働いていたときは、自分のほうが先に出勤して、送迎バスに乗って、添乗してとやっていたので、どうしても私が出勤してから、「学校行くんだよ。いいね」といって出勤していく。実際9時ぐらいになって、学校から「来ていません」という電話がかかってくる。「すみません。ちょっと探しに行ってきます」と言いながら職場を出ていくということもあって、なかなか厳しい時代もありました。

女性は、結婚とともにちょっと付き合う友達が変わったりするのですよね。結婚したお相手の経済状況だったりとか、住んでいる地域によって、今まで自分と仲よくしていた友達と物理的に引き離されたりもするし、何か生活水準が

変わってしまったりして、今までと同様にお付き合いができなくなってしまつて、では、感覚の合う友達とどうやって出会ったらいいのか。離婚したら離婚したで、また今までの友達と付き合いづらくなってしまつたり、相手に気を使われたりということで、なかなか子育てについて胸を広げて、腹を割って話せる相手がいなくなってしまうというのはすごくつらく感じました。

これは、私の今のパートナーもやはりそうで、男同士はなかなか初めて会つた人と腹を割って話せないよと。だから出会いの場を用意されても、そんなにすぐに自分の弱みを見せられないから、そこに行つて「はい、そうですか」とはできないよねと言われて来ました。

今、私がやっている仕事の、訪デイに来るような人たちは、まだ支援を受けられているのですよ。助成金も受けられる、支援も受けられる。でも、そこにたどり着けていない人のほうが、つまり本当に支援を必要としている人に情報が行き届いていない、情報不足感を感じていました。

そういう人たちに限つて社会的資源を活用できていない。私は知っているから、ホームページとかばんばん見て、もらえる助成金は全部もらつて、018サポートとかも速攻申し込んで。でも知らない人は活用できない。本当に必要な人は、仕事をしていて、そんな調べる余裕もなく、毎日かつかつの生活をしていて、そこにたどり着けていないというジレンマを感じました。私の書いたのは、以上になります。

会長：ありがとうございます。それでは、次、お願いいたします。

委員：ほぼほぼ出たような気がするのですけれども、妊娠をして、母子手帳をもらいに行つて、両親学級に行つて、この後の様々な事柄が出てくるのですが、最近のパパたちに聞くと、一緒に参加したい、一緒に行くという方が、すごく私たちの頃よりも増えたとし、行きやすくなったというお声を聞くのですけれども、一緒には行くのだけど、ママと一緒にいきたい。子どもが生まれて「今度、親子ひろばに来る？」と言つたら、3人で一緒に行きたい。ママ的には2人行つてほしい、きっかけづくりをしてほしいとするのに、行くけど、みんなで、みんなで、みたいな方がすごく多いというのがあります。

そこには何かやはり母親はお話しするだけでもすっきりすることがあるのですけれども、お父さんは、集まっただけでは、そこにやはり明確な何かがない限り、突然のように話が弾むとか、よほど司会の方に力量があつて、話を回すのがうまいとかではない限り、突然集まつて何かというのは、なかなか難しいというお声は頂きました。

あと、やはりさっきのお話じゃないのですけれども、実家が遠いという方が今、すごく多くて、急なときに近くで助けてくれる人がいない。本当に自分が助けてと、この人なら言えるという人がいないという方がすごく多かったです。

あとは、お話も出ていたのですけれども、子どもの育ちや発達について何となく楽観的なパパがすごく多くて、お母さんが、こういうのちょっと気になるのだという話をされていても、「それ、パパにも聞いた？ 一緒に見てる？」と言っても、「あんまり気にしてない」と言うのだという方が多くて、やはり子育ては積み重ねで、発達は人それぞれだというのはすごく皆さんも分かっていると思うのですけれども、全体的な傾向として、パパは、すぐできると思う方がちょっと多い気がして、それは日々ママが努力して、毎日毎日スプーン持たせて、毎日毎日マグで水に飲ませてというのから、コップに移行して、スプーンから箸になってという日々の努力というか、その積み重ねというのを、やはり何かちょっと見落とししているの、その発達に関しても、やはり何を子どもがしてほしいと思っているのかが分からない。その小さい変化が、やはりちょっと見落としがちというのは聞きました。

そもそも何をしてもママにかなわないと思っているのが何となく根底にあるみたいで、何をしたらいいのかが分からない。一緒に2人の子どもだけけれども、若干お手伝いとか応援という気持ちが少しあって、分担するということにはなかなか行ってくなくて、ただ、そこにとても細かい指示があれば、それは全てできる。ママから聞いた話だと、「チーズ買ってきて」と言ったら、とんでもない高いチーズ買ってくるのだけど、「この銘柄の、これで」と写メ撮って見せたり、明確な何か「アンパンマンのパンのこれです」と言うときちんと買えるけど、そうではない、ざっくりした感じで、「あと足りないものは、自分で考えて」みたいなことになってしまうと、もう分からなくなってしまうから、何にも買ってこないという方もいました。

それが、これにつながって、ママの決めたことがあるのが分からない。気持ちが、なかなか意思疎通とか連携というのが、話合いをしているようで、やはり何で怒っているのかなという方がすごく多かったです、パパに聞くと、何かすごくいらいらしているのだけど、その理由が、聞いても「言わないと、分からないの？」みたいな感じになってしまって、ちょっとその辺がつかみにくいというパパもいました。

あとは、育休を取った方が、その後の会社の立場なり、社会から遅れているのではないかという気持ちをやはり持つという方も若干いて、あとは、ローンがやはりあるから、育休が取りたかったけど取れない。あと、ママも本当は取ってほしかったけれども、経済的な面を考えたら、今は取ってもらうのは無理だから、第2子のときに何とか取ってもらえるように最初に共働きして、第2子のときには育休を考えるという意見もありました。以上です。

会長：ありがとうございます。それでは、次、お願いいたします。

委員：私の話は、どうしてもママの話を通してのパパの困り事になってしまうのですけれども、大体上がってくるのは、パパが結局何をやっても怒られるというこ

とが多くて、何かパパが気を遣って、ママが忙しそうだから、お皿を洗おうと思って洗ったけど、洗い方がどうだといって怒られてとか、そういう細かいことでたくさんあって、結局、何かママも、これだったら黙って私がやったほうが早いになってしまうし、パパも頼られなくなって、助けたいのに残念な気持ちになってしまうというのがあるのかなと思いました。

あとは、子どもを見るという意味が、パパとママで多分考えていることが違って、ママが「子どもを見てね」と言ったら、少数かもしれないですけども、本当に何時間も見ているだけ、手も出さない、見てるだけという人もいたりするので、ママが言った、この「子どもを見てね」ということの中に、何が含まれてるのかというのを共有できてないということがあるのではないかなと思いました。

あとは、ママが体調不良のときに、もちろんママの食事とかも大事ですけど、子どもの食事とか、お世話が行き届かなくなったり、最悪パパの食事もないみたいな、自分で作れなかったら、「俺の御飯は？」みたいなことが起きたりするので、やはりパパがある程度食事を作れるくらいのところはあったほうが、家族が助かるのではないかなと思いました。

あとは、寝かしつけとか、抱っことか、保育園のお迎えとかが、ママじゃないと駄目という状況が、結局、何かママを苦しめて、パパが頼られないみたいな状況をどんどん悪循環を作っていくので、何とか寝かしつけとか、抱っことか、お迎えとかは、ママじゃないと駄目という状況じゃなくしていくのが、家庭の支援みたいな感じになってくるのかなと思いました。

あとは、夫婦間の遊びに行くとか、リフレッシュに対する遠慮のし合いというか、どうしても休みの日、じゃあ、パパが会社のゴルフがあるからとか、集まりがあるからといって行ったりするけど、そういうのもパパも多分遠慮して、でも、ここだけは行きたいというので言っているのだけど、ママは、「えっ、また行くの？」となってしまうし、私は休んでないけどみたいに、私も子どもと離れたいけど、その時間を作ってもらえないみたいなところがあったりして、パパもすごくリフレッシュに対して遠慮があるし、ママも結局リフレッシュできないみたいな、夫婦、両方とも結局リフレッシュできずに、ずっと子育てをしているような状況があるのではないかなと思いました。

また、さっきのお話にもありましたが、子どもの発達の悩み、保育園とか小学校の先生からちょっと発達のほうがという相談が、大体お母さんのほうにあったりして、お母さん、すごく悩まれているけど、お父さんに相談すると、「いや、子どもってそういうもんでしょ」みたいな答えがあったりして、結局子どもの発達について一緒になって考えていくというのが、難しい状況があるのかなと思いました。

あとは、結構本当にこの悩みが多くて、結婚前のようにママを女性として見てないという、見られてないのではないかという悩みですね。結婚前はやはり女性としてすごく扱われて、自分と一緒に幸せになっていこうと約束して、結婚したわけなのですけれども、子どもが生まれて、こういうことがいっぱいあって、いつもいらいらしていたり、ママが怒っていたりとか、パパに駄目出しをしたりとか、そういう夫婦の行き違いがある中で、やはり旦那さんから女性として見てもらえなくなって、何か自分は母親に、旦那さんの母親になったみたいな感じになってしまうという意見はすごく多い。すごく悩まれている方が多いですね。

だから、アメリカのドラマとか見ていると、結構気軽にベビーシッターさんに預けて2人でデート行くというシーンがすごくあるのですけれども、なかなか日本では、そういうふうに気軽に子どもを預けることが難しいので、この辺のパートナーシップも大事なのではないかなと思いました。以上です。

会 長：ありがとうございます。それでは、次、お願いいたします。

委 員：まず、子どもが言うことを聞かないというのが、これが本当に一言で言うてしまうと、これに尽きるのですけれども、この言うことを聞かないというのが何かというと、今までもお話が出ていたのですけど、お子さんの発達特性をきちんと理解していないということとか、あと、お子さんに、発達特性はなくても、その発達段階ですね、発達段階をきちんとよく理解できていなくて、小さいお子さんに、それよりもっと上のお子さんができるようなことを要求してしまっ、言うことを聞かないとか、そういうことがあると思います。

あと、そのほかにも、そのお子さんの性格、そこまで特性とか発達段階とか難しいことを言わなくても、そのお子さんの、その時々のお気持ちを多分ママよりも過ごしている時間が短いと酌み取れなくて、うまく切り替えをさせてあげることができないとか、もろもろいろいろあるのですけれども、一言で言うと、その子どもが言うことを聞かない。もう少し細かく言うと、そうすると、その子どもがそこでイヤイヤ期なんかだと、嫌っとなるのだけれども、そこがうまく切り替えてあげることが難しいみたいなところはあります。うちにご相談に来るケースだと、そこで手が出てしまったりということにもなるのですけれども、こういうこともある。

似ているのですけれども、今までも何回もお話出ていたと思うのですけど、どうしてもママがいい、ママと言うか、その主体保育者のほうにどうしても子どもが行ってしまっ、自分を拒否してしまうところはあるかなと思います。

あとは、多いなと思っているのが、このやはり主たる養育者である、主に母とさせていただきますけど、母がいらいらしている。このいらいらというのは、いろいろなことに本当にいらいらしていると思うのですけれども、先ほども

ちょっとどなたかで出ていましたが、ご相談の中で感じるのは、やはり母が自分の決めたとおりに動いてほしいというところがあるのですよね。

母が、子どもにも自分のこの枠の中でやってほしいし、父もこの自分の枠の中で思ったとおりに動いてほしい。さっきのチーズの話じゃないですけども、チーズだったら何でもいいじゃなくて、自分の決めたチーズを買ってきてほしいみたいな、そういうことですかね。いろいろ母がいらいらしてしまうところがあるかなと思います。

あとは、今、共働きの方が多いので、家事分担のここでもすごくやはりもめることが多くて、家事分担も、先ほどの決めた範囲というお話にもつながるのですけれども、やはりやっても母が思ったとおりにやってくれないと、母はやはりいらいらするという、この辺のお話も多いですね。

あと、これは母も父も両方かと思うのですけれども、とにかくいつも時間に追われているというところは、時間の余裕のなさというところが、非常にいらいらにもつながるしというところで、家庭の中では、なかなかめ事になることの要因の1つかなとも思います。簡単ですが、以上です。

会長：ありがとうございます。それでは、次、お願いいたします。

委員：よろしくをお願いします。

結構、実体験になるところなのですけれども、これは10年近く前の話なのですけど、やはり仕事がすごく忙しくて、朝、家を6時45分に出て、帰ってくるのが11時みたいな生活が一時期あって、こういうところで、やはり育児に参加できないというところがあって、何人かほかの方もおっしゃっていたことなのですけれども、何か子どもと遊ぼうとしても、「いや、もう、お母さんがいい」と、やはりちょっと傷つくこともありました。

そういう状況で、そのときはちょうど上2人がいたのですけれども、結構妻が精神的に参っている状況だったりとかして、そういう生活はちょっとよろしくないんで、朝早く出るのはしょうがないけれども、残業もなしにしてくれと会社に話をして、残業なしは許可をもらったのですが、次の年にそれを理由に給料を下げられて、最終的にその会社は辞めて、違う会社に就職しました。

ほかの方も言っていたと思うのですけれども、育休というのは、やはりちょっと検討してみたのですけど、20代とか30代の前半は、そんなに収入はよくない現状があって、その状況で育休取ると、収入6割になると言われると、「ええっ、6割じゃやはり3か月とか取っても、生活していくの今後大変だよな」というので、どうしても断念するというのがあったのと。

あと、生まれたばかりの頃は、やはり赤ちゃんと一緒にいられるのは、もうそのときがほぼ最後というか、そのかわいさはそのときしかないというのはすごく分かるのですけれども、やはり収入があんまりよくないと、残業してお金を稼がなければみたいなところもあって、そうすると、やはり自分としては

早く帰って育児するなり、家事するなりしたいという気持ちはあるけど、一方で、将来のこととか考えると、ここで収入のことも考えると、やはり残業しなければいけないとか、仕事も残っているというところで、そういう葛藤がずっとあったかなと思います。

あとは、ちょっと収入の話に近かったのですがけれども、職場に育児している人が、私の周りだとあまりなくて、例えば会社で子どもが熱出したときに休める制度というのは整っているんですね。育児休暇も積極的に取ってくださいとは言ってくれているのですがけれども、自分の周りは、そもそもまず結婚していない人がすごく多いんですね。結婚してない独身の40代とかがすごく多い職場なのですよ。

そういう状況下で、やはり子どもの話ってちょっとしづらくて、実際、自分が結婚してなくて、僕、結婚したのが34のときなのですけど、30代前半とかで変な言い訳する人とかがいて、「俺は家庭を持っているから、飲み会にお金出せないから独身のおまえが出せ」みたいなこととか言ってくる人が昔いて、そういう人の印象とかもあるので、何かあまり自分が家庭を持っているから、だから何かみたいなことはちょっと言いづらいというのがあるのですよね。そうなってくると、例えば「子どもがちょっと熱出したんで休みます」というのも、やはり言いづらいというのがあります。

あとは、ちょっとこれも別の話になるのですがけれども、小学校の子どもの、上の子の同級生のお父さんで、奥さんを病気で亡くされている方がいて、その人と下の子が同じ年齢なのなのですが、やはり大変そうなのですよ。男の子2人抱えていて、近くに奥さんのお母さんが住んでいるから、例えば「飲みに行きましょうよ」みたいなので、そのときはその奥さんのお母さんの家に預けるとかやっていらっしゃるのですが、手伝いに来てもらっていたりとかするので、多分パパ1人でというのは結構難しいのかな。その人は今、在宅で仕事しているからいろいろ回っているところはあるのですが、それでも何か大変そうだなと思いました。私としては以上になります。ありがとうございます。

会長：ありがとうございます。お願いします。

委員：よろしくお願いします。私は、朝7時に出て、さっきもおっしゃっていましたが、夜11時に帰れるという生活で、完全に専業主婦として奥さんに任せっきり。土日だけ頑張って、いろいろ連れて行って、日曜日の夜になると、子どもから「パパ、また来週ね」と言われるのですよね。1週間会えないから。そういう生活を送っていた私と、息子たちが2駅先にいるのですが、同じ大学で、同じ企業で、同じ部なので、お互い気心が知れていて、非常に何か違った夫婦像を見せられているという感じがあるのですよね。

基本的にいうと、奥さんの出産のときがすごく大変で、高血圧で、早期に取り出さなければいけなかったというので、1,400グラムで生まれてきたのですね。その後1か月入院して、家に帰ってきて、その途端に、息子のほうが、会社で2番目だと言っていました。産後育休を取って、それから多分、育て方についての合意ができたと思うのですね。

彼は、学生時代に料理教室に通って、料理ができるのですね。おむつも替えますし何もかもできるのですが、夫婦間の分担はもう完全に50対50になっています。実務から何から何まで含めて、おむつ替えから登園するときの何を詰めるかとか、そういうことも全部交代、交代にやっています。これできていない人、物すごく多いのだと思うのですけれども、私、見ると、すごく感心していて、僕なら絶対できないと思うことをやっています。

ただ、一番困っているのが、それから環境の変化というのがあって、コロナがすごく大きくて、2人とも在宅で子どもを見るということが比較的容易になったということがあるのですね。その点、恵まれているとは言えるのですけれども、子どもが熱を出すと、保育園に連れて行けない。そのときに、では、2人とも仕事をしないといけない。こっちのテーブルで奥さんが会議をしていて、こっちのテーブルで旦那がまた会議をしているという中で子どもを見るわけにいかないので、病児保育に預ける。そうすると、要らない病気をもらってきたりとか、やはり嫌がって行かないとか、届けに行くのが大変だとか、いろいろな問題がある。そういうときは外のヘルプがやはり必要だということで、登園できないときに誰かに預ける。時々預かりますけれども、そういうことですね。

それから、2人ともすごく残業が多くて、在宅とはいえ、5時に一旦終わって、子どもが帰ってきて何やかんや終わって、そこから残っている仕事をやってしまうということがあって、週末なんかもうくたくたなのです。では、どうする、連れといでと言って預かる。それができないときはどうするのというと、いっそのこともう気晴らしだというので、2人で子どもを連れて、こういう国分寺じゃないので、国分寺みたいなこういう施設があればいいのですけれども、立川みたいなグリーンスプリングスとか、何かありますよね。室内でも遊べるようなところ、京王れーるランドとか、動物園とか、ああいうところに連れて行って、「ちょっと一緒に来てよ」と言うのですよ。こっちで預かるのですけど、その間、休養しているとか、うちに来てもらって2人とも寝ているというような、休日にどうしても休めないというのが、やはり大変かなということですね。

それから、時間が足りないというのは、もう、とにかく洗濯は全部自動洗濯機で乾燥までやってしまう。御飯については作れるのだけれども、週末は作るけど、それ以外は、ミールパックというのですか、何かそういうものを炒める

だけとか、チンするだけだとか、ゆでるだけだとか、そういうふうにして極力家事の負担を軽減させている。

だから、そのこのところ、もうちょっとちゃんとしたいとは言っているのですが、離乳食とかについては、やはり母親しか作れなくて、その辺はちょっと母親がやはり頑張り屋さんなので、ばたんといくときがあって、そのときはうちの母親がずっと見ていたりという感じなのですよね。

それから、近所付き合いということに関しては、保育園が、彼らのマンション、社宅なのですけど、その横にあるのですぐ行けるのですけれども、では、保育園を通じた何かコミュニティの中に入っているかということ、多分母親は入っているのですよね。父親は全く関心がない。2人とも理系なので、関心がない。だから、地域との取っかかりは何かというと、多分2人ともあまり持ってないですね。

そこをどうやってかというと、多分保育園が取っかかりになるのか、小学校になったら、小学校が取っかかりになるのか、そういうことだと思うのですよね。私が国分寺で彼らを育てたときの取っかかりで残っているのは、小学校のときのパパ友です。パパ友といっても、もともと子どもたちが一緒に、ママ友世界があって、そこに一緒に出る中でパパ同士友達になったという、そのパパ友がLINEで「飲みに行こうぜ」というのは今でもやっています。

それから高校のとき、2人ともラグビー部だったのですけど、そこで試合があると応援に行くじゃないですか、父兄が。その父兄が仲よくなって、18年かな、続いています。先週の土日はその父兄でちょっと旅行に行っていました。その地域ではないのですよね。地域というと、その小学校のときのおやじの会みたいな、LINEに入っているメンバーが「飲み、行くぜ」というと行きます。そんな感じですから、難しいですね。どうやって、つなげるか。

会 長：ありがとうございます。皆様、ありがとうございます。結構出ましたね。

ちなみに、これは第1段階です。ここから、第2段階に進んでいきます。

最初、ホワイトボードでやろうかなと思ったのですけれども、結構出していたので、ちょっとホワイトボードには収まりきらないなと思ひまして、ぱっとこっちを見ると、机が動きそうなので、でっかい台にしたいと思ひます。ありがとうございます。

では、ここからまず同じものを分類していきたいと思ひます。これとこれ同じだよなというのをまず見つけていただいて、多分幾つか、既に大体似たような項目があると思うので、ちょっと皆さんで見つけていただいて、似たもの同士の付箋をぺたぺたまとめて、机の上に動かしてください。まず、ざっと見ていただいて。

(実習)

会長：では、見やすいように座っていただきながらですが、本当によくいろいろな意見が出て、まとまりも、見やすくなっているかなと思います。こういうのをを出していただいて、前回、ぼやけていた対象が、これで少し見えてきたかなと思います。

問題は、ここから子ども家庭支援センターがどういうふう支援をしていけばいいのかな、どういう支援があり得るのかなというところなのですけれども、いっぱい付箋の数が多いのは、家庭内とか、夫婦間、育児の役割分担とか、あと夫婦間の調整ですかね。あと、子どもの接し方、発達、その辺がやはり多いですかね。家庭内、夫婦、子どもに関するところがいっぱい意見を出していただいたかなと思います。その辺にどういうアプローチをかけられるかというところで、私の感覚的などころからいくと、発達関係は恐らくこの辺ですよ。経験的に積み上がっていくところも、もちろん多いと思いますし、あと、母子保健のところ、何歳児検診とか、いろいろな専門家からのアドバイスもらえる機会が、行けばもらえるけれども、なかなかそこにアクセスできないというか、そういった情報との接点がやはり少ないのかなと思います。

あと、家庭内の役割分担。本当にこれは夫婦、あるいは家族形態によってそれぞれで偏りがある。どういう偏りか、シェアできているか、この辺、私下手ですね。家庭内でどうやったらいいのかというのは、自分の家でも悩んでいます。その辺にどうアプローチしていけるか。夫婦間の価値観の違いは、どうやってガス抜くかという感じになってくるのかな。どうですかね。

皆さん、何かいいアイデア、何かできそうだなというところがあれば、お知恵を頂きたいところですが、こういうことやっていたよとか、自分はこういうときに少し楽になったよというのがあれば。

委員：ちょっといいですか。家庭内のボリュームも多いですけど、1つ1つの家庭にはその状況に合った解決があって、それを全部行政主導で解決できるわけではないので、例えば話をするだけで気が楽になったりとか、また、夫婦同士で話をする時間を持ったりとか、何かそういう関わり、人との関わりがもっと増えて、しかも、その関わりが、職場では話せないみたいなのもありましたけど、家庭とか子育てみたいな話のできる関わりが増えると、何か直接的にそこにアプローチするわけではないけれども、困りが減っていくみたいなのはあるのかなと思いました。

会長：ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。何かお気づきのこと、出していただいて。

委員：子どもの発達とか、今おっしゃったような夫婦間のこととか、子どもへの接し方というのが、やはり分からないという方が多いというお話も出ていたと思うのですが、子どもができてから実際にやってきて、発達がよく分からないから上を求めてしまうとか、そういうので叱ってしまうとか、さっきもあつ

たと思うのです。であれば、もっと前の段階、妊娠したときに、お母さんの母子手帳を頂くのと同じように、何らかのお父さん向けとか、家族向けの簡単な発達の、子どもの発達についてとか、さっき手を上げてしまうというお話もやはり聞くので、虐待というのはこういうものですよというのを、分からない人のためにもっと事前な情報というのですか。

さっき情報が本当に必要な人には伝わらないというお話も出ていたのですけれども、そういうものであれば、市役所にそういうことで行ったときに全員もらえるとか、子ども家庭支援センターに来たら、そういう情報がもらえるというものがあれば、そういう情報が本当に必要としている人にも行くという、何か1つの手だてがあるといいかなと思ったのですが。

委員：今、ゆりかご面接とか、国分寺市さんはやっというらっしゃると思うのですけれども、実施率は何%なのでしょう。

事務局：かなり高いです。

委員：じゃあ、話しはできているんですね。

委員：ただ、圧倒的に女性が多いですね。お母さん。

事務局：そうですね。母子保健バックの中にパパブックとか入れて、配布は全部、妊娠届出された方についてはお配りさせていただいているところではあるのです。

委員：そういったものは情報が多過ぎて。

事務局：すごく多いですね。

委員：多過ぎて、どこをどうやって自分の必要を取っていくのか難しいというのが、お母様たちから話がありますよね。

委員：パパブックというのは、母子手帳みたいに成長していく段階で記入したりという、そういう形ではないですね。

事務局：そういう形ではなく冊子です。子どもの成長とかを説明しているものです。

委員：パパも何かにそうやって参加したときに、子どもの一言が書けるようなものと。

事務局：父親手帳とはまた違います。

委員：また違うのですね。

事務局：はい。子育てガイドブックのパパ版のみたいなものですね。

委員：自分が持つものがあつたら、そこにちょっと子どもの成長を書くなり、例えばちょっと言葉が遅いのではないかなといったら、それも一言書くなり、そういうものという構想はあるのですか。そういう手帳というか。

事務局：今、それはないです。母子手帳がいろいろ今変わってきて、電子でできるようという国の流れがあるので、そうすると、もしかするとパパもアクセスしたりできる場所があるかもしれません。国分寺の場合は、電子母子手帳はありませんが、今、「母子モ」のアプリが誰でも自分でダウンロードできて、そこに自分の子どもの年齢とか、誕生日とかですかね、入れておくと予防接種のお

知らせとかが来るようになっていきます。母親だけではなく、父親でも、祖父母でも、誰でも入れて、そこに子どもの記録を入れられます。

委員：母子手帳アプリの中に、初めてできたよという記録を、写真と、簡単に書けるようなものは用意されているという状況なのですね。

委員：すみません。家庭内の夫婦の分担みたいな話が結構多いので、では、分担しましょうといったところで、やはり隠れている家事ではないですけど、そういうものも多かたりするので、何か市のほうから、では、こういう家事がありますよ。では、これを2人で分担しましょうみたいな紙があったら、夫婦で取り組みやすいのかなと思ったりしました。

委員：今の話に関して、すごく若い夫婦の話を聞いたことがあって、今、お互いにスマホとかで見られる共通のフォルダーを作っていて、そこでアプリなのか何なのか分からないですけど、そこに全ての家事を挙げるのですって。全ての家事というのは、名前のない家事というのがあって、ティッシュペーパーを変えるとか、洗剤がなくなったら入れるとか、本当は、一方がやっていて、他方が知らないまま、いつの間にか成立しているようなこととにかく拾って行って、それを何か割合を決めてやると、ぽんぽんぽんぽん入ってきて、円グラフができるみたいな、恐ろしい。一応、それで今のところ、1年、2年ぐらい結婚してから回っているらしいという話もあって、見える化してやっついこうねというのは、先ほど言われたように、いつの間にか子どもが成長しているのではなくて、ちゃんと、それを支えている人が家族内にいるからやっているのだというのが見えていくというのは、いいことなのかなと思いました。

委員：それを何かフィードバックするような集まる会を、1回、地域で設けてもいいのかもしれない。夫婦とか家族で参加して、では、これ書いてきてくださいと言って、そのフィードバックをできるような。そこで、その話合いをしつつ、顔見知りを作りつつみたいなのもいいんじゃないか。

委員：実は、今日、私が一番、これをやって感じたのは、この作業をやることに、例えばここに悩んでいるお父さんがいたとしたら、これだけで何となく、お母さんも含めて分かるところとか、救われる部分があるのかなと。何となくもやもや、いらいらして、お互いに不満を抱いていたところが、何かみんな悩んでいることで、やはりこういうこと、むしろ、こういうふうに出してみることで解決策があるのではないかと見えてくると思うので、どういう演目で、どういうタイトルで、どういうふうにつかかはともかく、こういうようなことについて参加できる機会を持つというのはいいと思っています。

委員：自分が、子どもが幼児期だったときに、言うことを聞かないというか、何でそれやっているのだろう。例えば体にヨーグルトを塗りたくっているとか、そういう日頃の小さいことなのだけど、片づけは大変だし、洗うのは大変だしみたいなことを、例えばほかの人と話して、「ああ、うちもだよ」と言われたら、

うちだけではないのだと思うとちょっとほっとしたり、笑いに変わることができたりというのがあったのですよね。今、エックスとかでも育児ネタはすごくバズるじゃないですか。でも、それって共感の嵐ですよ。みんな、うちも、うちもとなるから、そういうところで安らぎを得たりとか、笑いに換えられたりするの、そういう情報共有ではないのですけれども、よそも同じなのだと思感、共鳴できるような催し、集まりができればいいのかなと。

でも、今、手頃だからツイッターをやってしまうけれども、そういうのを直で話していたら、また膨らむこともあると思うし、いいのではないかと思います。

さっきのチーズの話は、うちの娘が同じような感じだなと思ったのですよ。

「洗濯物を干しておいてね」と言ったら、すごく乾かなさそうな干し方するのですよ。お母さんは、いつもこうやって隙間空けて干しているよねというのを、取り込むのはしてくれるのに、どうやって干してあったかをちゃんと見てないで、ただ、何となく、ばばばばってしまってしまうから、どうなっていたか分かっていない。覚えてない。お父さんも、いつも適当に食べているから、どこのメーカーだとかあまり把握してないのかなと。そこは何か育て方なのかなと思ってしまったり、お父さんが子どもというわけではないのですけど。お義母さん、こんな育て方してきたのだとか。

委員：さっき男性の特性というお話が出たの、私もすごく分かるなど。ほかの人と話す機会があったりとか、第三者が入って話をするという機会は大事だなと思いました。さっきの家事分担の円グラフが見える化できるというのは、すごく具体的でいいと思うのですが、それを夫婦間だけでやると、うまくいく夫婦だといいいのですけれども、それがけんかの火種になってしまったりとか、何かよくない方向に行く夫婦もいると考えると、やはり第三者が介入できる場があるといいいなど、それが支援だと思うのです。

さっき出てきた男性の特性は、やはりちょっと女性とは違って、何か具体的なメリットを求めるとか、目的がないと出てこないとか、そういう特性があると思うので、男性が何を求めているとか、男性の特性というのをもっと知ることによって、どういう支援を具体的にしていっていいのかと、つながる部分もあるのかなと感じました。

委員：男性は、私も男だから分かりますけど、脳の働きは変わってなくて、何万年前から。要するに狩猟民族の脳があって、出て行って一生懸命何かやって、持ち帰るとい、そういう本能的なものがやはり残ってしまっているの、そこを、今、ほとんど共働きが多いのではないですか、多分。何らかの形で両方も働いているという形が多いのだと思うのですね。

その中で分業していく。つまり、その父親が、男が中に入って、家事を分担していく。その中にいろいろあつれきはある。個別の事情もある。だから、そ

ういう中で、必要最小限の、ここは本当に困るよねと、外の支援を得なければいけないところ、そういうところを公的な父親サポートという形で、公的な手が入っても、支援が入ってもいいのかなと思ったりするのですよね。そこをピックアップして行って、父親支援の枠組みをもう一度考え直してみる。だから、私もそうなのですが、男同士寄ったって話が弾みません、本当に。何か共通の目的があって、「これやろうね」といったら、もう何かば一つと力を発揮するのですけれども、そうでなければ。いや、ごめんなさい。違う人もいると思うので一概に言えませんが、違う人がいたら、ごめんなさい。

委員：その目的があると、頑張れるということですね。

委員：そうですよ。何かイベントがあったら一生懸命頑張りますよ。貢献できると思って頑張ります。

委員：今の話を聞いたり、先ほどの話で、やはり話合うだけではなくて、作業が入る。女性もそうだと思うのです。今も真剣に悩んで、あれはこうだよねと話したことで一致団結できるというのはあると思うのですけれども、その内容は分からないのですが、一緒に共同作業をするみたいなことを名目にして何かを考えてもらうとか。

委員：例えば父親料理教室だとか、例えば今日は離乳食を作りますよといったら、大体その層が来るじゃないですか。離乳食ではなくて、普通の料理だと、違う層が来るとか、父親と一緒に出かけとか、体操しましょう、フラフープしましょうみたいな、何かそういうお題目があれば。

委員：お父さんのすごさというところを持ってくると、子どもも。

委員：来るような気がする。子どもも一緒に来られるし。料理教室はちょっと無理かもしれないけど。

委員：お父さんのことを何か尊敬ではなくて、お父さんはこういうことができる人なのだという気づき。

委員：それを通じて、例えば家事の分担の中で、食事が作れないからとかというところに、ちょっとプラスに働いてみたり、そういうものをいっぱい出して、そういうものをメニューにした父親教室みたいなのを開いていけば、何となくパパトークよりはうまくいくのではないかな。

委員：ただのトークよりも、パパのいいところを子どもに見せるぞという催しがあったら、何か来てくれるのかな。

委員：そうですね。

委員：お料理なんかも、もしかしたらできないと思っていたけど、得意だったかもしれないというのがね。

委員：パパの株が上がるぞ、ここに行けばと。

委員：イベントとしては、結構そういうのもあるのですけれども、親子ひろばとしては、各団体さんが努力されて、工夫されて、いろいろなものを打出したりする

のですけれども、そこが前回のテーマのように、グループ化するかというのにつながるかというのを、なかなかやはり継続性のある講座みたいなものではないと、男性の方は、どこかの組織に属しているというのはすごく大きいところなのです。

例えば同じ保育園の仲間とか、同じ小学校の仲間というのが大きいのではないかなと思うと、親子ひろばに来てくださる方たちだと、親子ひろばは不特定多数の方が自由に出入りする場所なので、単発のイベントを打っても、では、来るけど、それがそういう組織的なグループ活動につながるかとなると、やはりそこには継続性とか、このグループですよみたいなものがないと、なかなか厳しいのではないかと。

委員：継続性というのは、ライフステージがあって、段階が上がるにつれて、所属する団体が異なるじゃないですか。親子ひろばに来ている間、要するに、小さい未就学児を持っている時代にはここと付き合うけれども、幼稚園に入ると、あるいは、保育所に入ると、違う仲間になってみたり、学校に入ると完全に変わりますよね。特に学校が変わったりすると、なかなか付き合いが続かない。

ライフステージによってつながり方が違ってくるのですよね。前のつながりをずっとどこまで続けられるかは、その人たち、例えばリーダーがいるかとか、そういうことがすごく大きく関係していて、父親だけのというのも何かあまりぴんと来なくて、私が付き合っている、子どもが高校のときの仲間とか、小学校のときの仲間とか、みんな夫婦で付き合っていますから、中には、おやじだけで行こうよというときもありますけど、大体飲もうよというときには、夫婦で来て、飲んだりしますし、つながっていますので、何か男だけって、いいのですけど、もちろん。子どもを育てる上で父親の役割を見直す、それを補強するという意味で、父親だけにターゲットを絞った、そういうのがあるのはいいのですけれども、それが、ステージが変わるとやはり変わってくるのだというものを念頭に置いておかないと、これをずっと続けようなんて思うと、無理があるのかなと思います。リーダーがいて、続く場合もあると思います。

委員：いいですか。ここで見ていると、やはり夫婦の価値観とか、家庭内の役割分担というところの悩みが多いと思うのですけれども、小学校でスクールカウンセラーの制度があって、場合によってはひかりプラザで、カウンセラーの方と話し合う機会があって、そこは親も行けるので、うちも行っているのです。例えば保育園だったりとか、中学校だったりとか、幼稚園だったりというのは、今、そういう制度というものはあるのですか。そういうスクールカウンセラーというのは、私が知っている限りだと、小学校。

事務局：小学校と中学校で、場合によっては、高校生の方も利用している場合もあると聞いています。基本カウンセラーは小学校と中学校ですね。

事務局：スクールカウンセラーは小学校、中学校で、ひかりプラザの教育相談室になります。教育相談室は、小学校、中学校、義務教育の過程で使うことができるようになっていきます。

委員：家庭内の役割分担とかの悩みが多いというのは、共働きが比較的多いのかなと。うち共働きだから、逆に専業主婦の方の悩みがあまり分からないのですけれども。そう考えると、何かカウンセリングとかをやってもらえると。別途電話して相談するみたいなのが確かあったと思うのですけれども、カウンセリングみたいな形で月1回とか行く制度というのはあるのですか。特に乳幼児をターゲットにした世帯。そういうのがあるといいのかなと思ったのですけれども。

事務局：夫婦の問題について特化してのというのだと、乳幼児期に特化してはなくて、保健センターで、お子様の子育てとか発達についての心理相談は検診の後にやっていたりするので、そこで夫婦の話をする方ももしかしたらいるかもしれないのですが、特化はしてないです。

男女平等人権センター、ひかりプラザに今ある人権平和課がやっている女性相談とかで夫婦の課題を扱っています。でも、女性相談なので、主に女性の方が、そのパートナーとの関係を相談するという心理相談、カウンセリングみたいなものはあります。

委員：そういう乳幼児に特化したのがあると、例えば、では、実際夫婦で行くとなったときに、子どもどうするのという問題も絶対出てくるじゃないですか。例えばそれが預けられたりというのがあったらと思うのです。意見としては。

事務局：現状はないです。

委員：そういう乳幼児に特化したものがあるといいのかなと思いました。

会長：ありがとうございました。ちょっと予定しておりました時刻に達してしまいましたので、ぼちぼちと終わりを考えていかなければいけないのですけれども、今日、このワークをやってみて、これだけは言っておきたいとか、今、この感覚は伝えておきたいとかというところはございますでしょうか。

委員：家庭内でもそうなのですけれども、制度的なとか、社会的にという問題もすごく多くて、経済面とか、共働きを強いられている状況とかもそうだと思うのですけど、1人1人の困り事が、より大きな原因があって、なかなか個人では解決できないというところがあると思うので、そっちにまでつなげられると、制度の改善とかまでつなげる、何か仕組みがあるほうが、よりダイレクトなのかなという感じがしました。

会長：ありがとうございます。お願いします。

委員：根本的なところに戻るかもしれないのですけれども、結局、誰を対象としていくのかというところは、例えばこの会議に出ていたり、例えばPTAに参加してきてくれる人は、そこそこのそれなりの意識を持ってくださっている方だと思うのですよ。でも、そんなところに全く出てこない、本当の無関心層に呼び

かけていくものかというところ、どの辺りを目標として、本当に全体の底上げをしていくかというところも、ちょっと曖昧なのかなと感じています。

会 長：ほかは、いかがでしょうか。今回の答申というか、諮問を頂いているのが、組織化事業に関するところなので、恐らく底上げのイメージなのだろうなと思っています。

そこで、では、どういうふうに対象を区切っていくかということであれば、前回、そして今回のお話、あるいは、ワークをやってみて思ったのは、父親特化のものではあまりうまくいきそうにないというのが率直な感想で、父親を主なターゲットとはしながらも、両親というか、夫婦同時に何か参加できて、そこから父親同士がつながっていきけるような仕組みというか。ただ、ライフステージの移行があるので、何かつながるきっかけ、父親同士がつながることの何か肯定的な意味合いを、その場で伝えていきけるような取組で、その後の幼稚園とか保育園とかに就園した段で、もう一回つながり合えるような種をまいていくようなイメージかなと思います。

もちろん、その関係がつながっていけばいいのでしょうかけれども、そういった取組を、父親もしっかり参加できるような何かしらのワークをイメージしながらの単発、あるいは複数継続で参加もできるような、楽しみながら参画できるようなワークを幾つか打っていくようなことも可能なのかなというのが、今日の、今の段階での感覚です。

そこから、できれば、先ほど委員おっしゃったような、子ども・子育て支援計画に一定反映されるような意見集約とかもあってもいいのかもしれないですが、そこはちょっと行政の部局間での窓口をどう引き継いでいくかというところの課題でもありますけれども。

残り2回あって、次回が粗々の骨子を含めた案を取りまとめて、最終というか、4回目、次の次の段階で、答申としてまとめるという作業スケジュールになるので、今日、頂いた意見を踏まえて、あと、現状、先ほどもひろばでやっておられる事業もあるというお話がありましたし、子家センとして何ができるのか、今ある事業との関係で、どういう働きができるのか、もう少し整理したものを踏まえて、ちょっと事務局のほうで何ができそうなのかというのを少し絞っていただければと思います。

それを基に、また次回、答申案としてまとめていきたいと思いますが、そういった流れでよろしいですか、皆様、あるいは事務局。こういった出していたもので、どういう企画をしていくか、何を対象としていくかというのはヒントになると思いますので、また活用させていただきます。

それでは、配布がありますか。

事務局：資料13をお渡しします。

- 会 長：資料 13 として、この矢印はちょっと無視していただいて結構かなと思います。事前に私のほうでこういうイメージかなと思って勝手に作ったもの、矢印は想定したもので、そこに事務局が現状やっているものをまとめていただいたものです。いろいろな企画が既にある、それにどういう工夫が必要かとか、あるいは、新規にこういうものができるのではないかなというものを少し参考に、あくまでもこれは参考にして考えていただければと思います。
- 委 員：すみません。さっきの出てこない人の救済というのは、出てこないで、困っていないのならいいですけれども、例えば父親が出てこないことで母親が困っているというところ、企画、催し物もいいけれども、いよいよ出てこなくて、つながりを絶ってしまっている人が家庭内にあることによって、その家庭が困っているというところには個別にアプローチできるような、全体的に地域としてというところと、個別に困っている人たちをどう救済していくかみたいな方向が 2 つあってもいいのかなという気がします。
- 会 長：はい。基本的にその家庭内で困っているということが把握されていれば、恐らく養育訪問支援で一定対応できているか、どれだけの把握率があるのか知りませんが、ただ、そこにつなげていく、現状、制度として、先ほど少し話題があった、何事業と言っていましたか。4 か月目までに必ず行くやつ。
- 委 員：こんにちは赤ちゃん事業。
- 会 長：こんにちは赤ちゃん事業というのがあって、そこから継続で養育訪問支援とかにつながっていく、ちょっと困難を抱えた家庭に継続的に関わっていく制度もあるけれども、そこにつながっていくための仕掛けを作っていくというのも 1 つかなと思うし、あとは、時々相談で、継続的に子家のほうで関わっていくこともあります。ただ、その引き出してくるというか、つながりを作っていくというところは意識して取り組んでもいいのかなと思います。
- 本当に困っているのだろうけれども、困り感を持っていないというか、しんどいものだけど、もう自分でやるしかないと思ってしまっているというか。
- 委 員：しんどいので手いっぱい、それを解消する方向に動けない。
- 会 長：そうですね。そういったところにも、できればこういう企画を何か打ってけるといいのですけどね。
- 委 員：前のテーマでもあったかと思うのですが、どう発信していくかということと、やはり来ることによってメリットがあるというか、食事食べられるよとか、一緒に料理作ってちょっと食費浮くとか、気づいてない方がそこに来たら、思わず知識を得たみたいな、そんな形の魅力のあるものを作っていくというのも 1 つだと思うし、先ほど言われたように、やはり全体では難しい個別の支援が必要な人を、夫婦カウンセリングだとちょっとハードルが高いけれども、子育てに関する何とかみたいな、もう少し柔らかい形で家族のカウンセリング的なものがやっているといいなというのは常々思っていて、やはり民間の家族カ

ウンセリングだととても高いので、お勧めしたい家庭が幾つもありながらも断念しているところもあって、そんなものが増えていくといいなというのが、私の意見ではあります。

会長：何か意外と盛りだくさんの答申になるかもしれませんが、その辺はちょっと事務局に悩んでいただいて、勝手に投げてしまっていいのかな。

ただ、次回以降、本当に市に答申をして、ここに力を入れてやってほしいというところでまとめていきますので、また、皆さん、そこでアドバイスを頂ければと思います。

では、今日の審議についてはこれで終わりにさせていただいてよろしいですか。まだ、これは今のうちに言っておかないと、鉄は熱いうちに打たねばなりませんので、この今の感覚からして何かというのが、よろしいですか。

それでは、ちょっと時間が過ぎてしまいましたが、最後、事務局にお渡しをしたいと思います。

事務局：皆さん、活発なご意見ありがとうございました。3で報告事項として書かせていただいているものは、令和4年度の子ども家庭支援センター内で実施する事業の実績になります。資料12になります。お読み取りいただいて、今回、ご説明のほうは割愛させていただきますので、ご質問等ありましたら、事務局にお寄せいただければなと思っております。

——了——